

方針 8 サークル・合唱団をつくり、大きくし、うたごえ協議会の強化と建設をすすめる。また、ブロックの連帯活動を活発にするため、ブロック連絡会づくりを強める。

サークル・合唱団を新しくつくり、サークル・合唱団員を増やし、合唱発表会参加団体、協議会加盟団体、うたごえ新聞・季刊「日本のうたごえ」の読者を増やすことを目標持って計画的にすすめる。

〔組織建設〕

広島では、05年日本のうたごえ祭典開催後一気にうたごえ要求が高まり、郵便の職場や新婦人、医療生協の中にうたごえ会が生まれ、地域のうたごえ喫茶も盛んになった。福井でも、祭典を契機に地域サークルが復活したり、新婦人サークル、青年サークルが生まれている。奈良ではうたごえがこれまで影響の少なかった地域にうたごえ会が生まれ、07年日本のうたごえ祭典奈良開催に向けて意気高い。いずれも、祭典の取り組みの中でうたごえ喜びを実感することから、新たなサークルや定例のうたごえ喫茶に結びついている。

また、祭典や、さまざまな集会で結成された「市民合唱団」や「悪魔の飽食」の取り組みなどから、意識的な働きかけをする中で会員を増やしている例も多い（宮城、埼玉、静岡、奈良など）。合唱団「出版労連鳥の歌」では、九条・教基法を守る宣伝行動に歌で参加する取り組みの中から一気に3人の新団員が生まれている。

青年分野でも新たな動きがある。関西合唱団では定期演奏会に青年独自のステージを企画、そのメンバーがサークル「ブルースカイ」をつくり活動している。山梨では「うたごえ再建」めざし青年中心に4回のうたごえ会がおこなわれている。高齢者合唱団、サークルもますます盛んになっている。

この広がりを、協議会がしっかり把握し、結んでいくことが大切になっている。協議会がニュースを発行し、未加盟の団体にも届け、共同の取り組みを発展させる中で加盟団体も増えている（千葉・東京など）。60周年祭典を準備する東京では、協議会に結集して取り組むことの大切さが強調され、多くの新加盟団体が生まれている。産業別のうたごえの中で、県・全国協議会に加盟していない団体は依然として少なくない。地域と産業別の共同のとりくみを発展させながら、協議会を拡大強化していくことは大切な課題である。

ブロックの連帯の取り組みでは、ブロック祭典を継続して取り組んでいる北海道、九州、交流会を毎年開催している東北、関東、ブロック会議が定例化されている関西、関東などで、情報の交換、全国祭典の取り組み、講習会の開催などで成果をあげている。支え合い励まし合う、共同のとりくみのセンターとしての協議会、ブロックの活動を、各加盟団体の意識も高めながらさらに活発にすることが求められている。

うたごえ新聞・季刊「日本のうたごえ」読者拡大

ふくい・北陸祭典実行委員会は、祭典を知らせる絶好のツールとしてのうたごえ新聞と、読者が運動の理解者となり祭典成功の大きな力、祭典後の大きな財産になると位置付け、特別な体制も確立し大きな成果を上げ全国のとりくみを牽引した。昨年度、創刊50周年を記念した総力を挙げた取り組みで1000人以上の純増を達成したうたごえ新聞読者だが、全体としては減少傾向にある。運動の規模と広がりは確実に大きくなり、また、さま

ざまな運動に文化的要素が求められている今、音楽文化ジャーナルとしてのうたごえ新聞の果たす役割は大きい。「こんな良い新聞があることを知らなかった。すすめてくれてありがとう」という新しい読者の声を確信に、うたごえがひろがる喜びと同じように読者がひろがる喜びを感じる取り組みが大切である。

季刊「日本のうたごえ」読者は会員の約半数にとどまっている。多くの職場、女性サークル・合唱団の購読率は低いのが現状である。運動や音楽づくりについて論議を深め、確信を持った運動を展開のために、この機関誌をさらに充実させながら、多くの会員が購読し、学びながら行動することが60年にわたる運動の成果を未来につなぐ上でも大切になっている。